

認定日本語教育機関の認定申請に係る実務説明会

～第二部～

日本語教育課程に関する説明（主任教員向け）

① 日本語教育の参照枠

文部科学省総合教育政策局
日本語教育課



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

- 「日本語教育の参照枠」を活用したコースデザインに向けて
 - 1. 「日本語教育の参照枠」とは？
 - 2. なぜ今、「参照枠」なのか？
 - 3. 「参照枠」の基本的な考え方（言語教育観/日本語能力観）
～行動中心アプローチにおける言語教育の目標設定～
 - 4. 「日本語教育の参照枠」の評価の考え方
 - 5. コースデザインの4ステップ
 - 6. 「参照枠」を知るために



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY·JAPAN

1. 日本語教育の参照枠とは？



まずはここ！日本語教育コンテンツ共有システムNEWS

1. 我が国の外国人及び日本語教育の現状

近年、世界中で国境を越えた人の移動が進む中で、複数の場所や教育機関の間を移動しながら日本語を学ぶ人が増えてきた。また、進学や就職、在留資格を得るために日本語能力の証明が求められるようになってきている。



【参考】	・我が国の在留外国人	約358万人(令和6年6月)
	・我が国の就労外国人	約230万人(令和6年10月)
	・海外の日本語学習者	約379万人(令和3年度)

2. ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR) と活用状況

- ・欧州評議会によって2001年に公開され、40以上の言語に翻訳。
- ・言語資格を承認する際の根拠としても活用可能であり、国境や言語の枠を越えて、教育や就労の流動性を促進することにも役立てられている。
- ・ヨーロッパ各国では、移民や労働者の受入れのための言語教育や言語能力判定試験の基準に用いられている。
- ・欧米だけでなく、アジアにおいてもCEFRのレベルなどを活用した各国語能力の判定試験が実施されている。

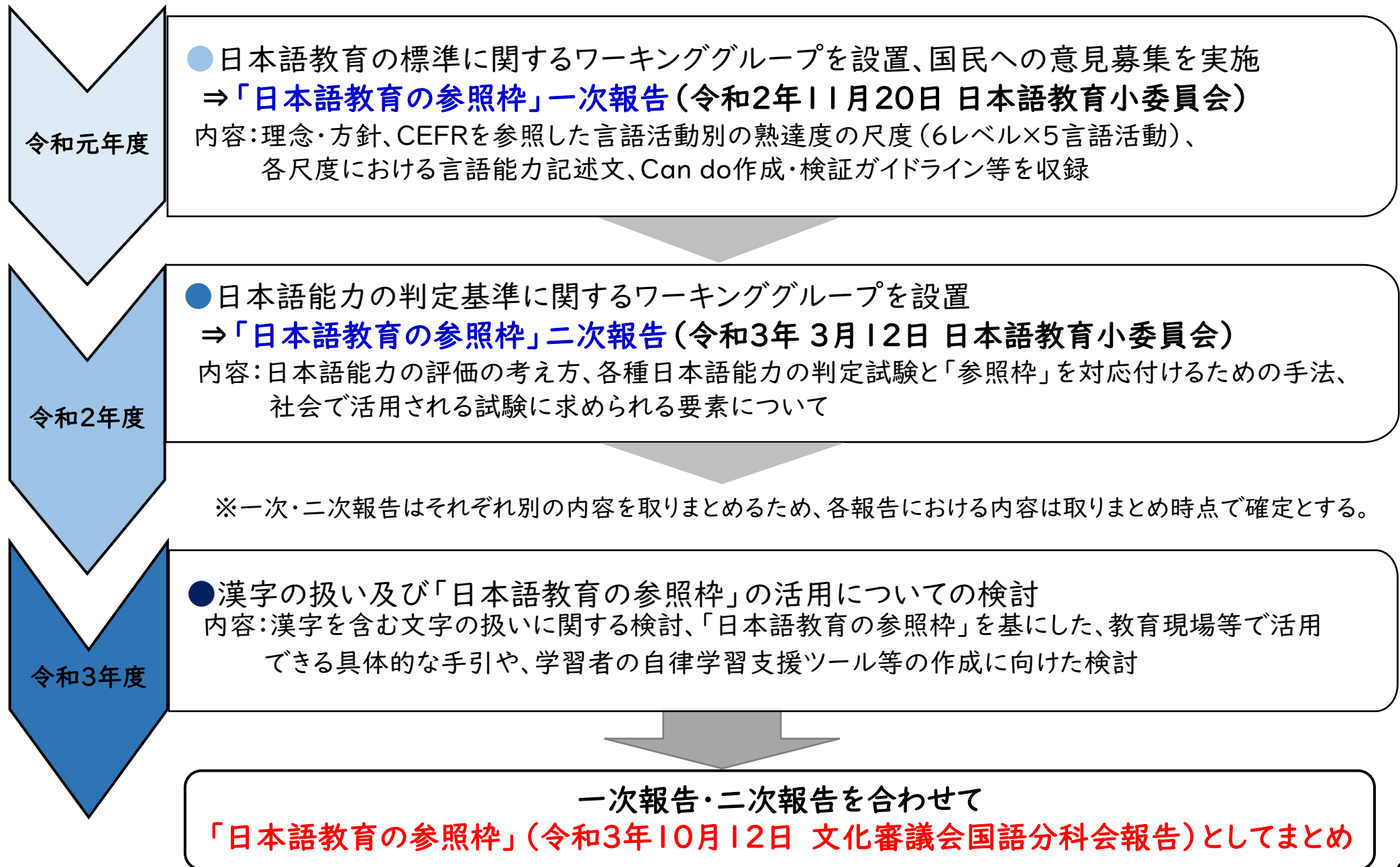
「日本語教育の参照枠」はCEFRを参考に作成されており、国際通用性が高く、言語や機関間の共通の指標で日本語能力を示すことが可能

CEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)を参考に、国内外における日本語学習者の日本語の習得段階に応じて求められる日本語教育の内容・方法を明らかにし、外国人等が適切な日本語教育を継続的に受けられるようにするため、日本語教育に関わる全ての者が参照できる学習、教授、評価に係る日本語教育の包括的な枠組みを示すもの。

CEFRとは？

ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR: Common European Framework of Reference for Languages)は、欧州評議会によって20年以上にわたる研究と検証の末に開発され2001年に公開された。現在では40もの言語で翻訳されている。また、CEFRは言語資格を承認する根拠にもなるため、国境や言語の枠を越えて、教育や就労の流動性を促進することにも役立っている。

「日本語教育の参照枠」の取りまとめの流れ



期待される効果

- 国内外共通の指標・包括的な枠組みが示されたことにより国や教育機関を移動しても継続して適切な日本語教育を受けることができる。
- 生活・就労・留学等の分野別の能力記述文（Can do）が開発され、生活者・就労者・留学生等に対する具体的かつ効果的な教育・評価が可能になる。
- 日本語能力が求められる様々な分野で共通の指標に基づく評価が可能となり、試験間の通用性が高まる。
- 適切な日本語能力判定の在り方が示されたことにより試験の質の向上が図られる。

国内外における日本語教育の質の向上を通して、
共生社会の実現に寄与

【審議会報告】

- 令和4年 2月 「日本語教育の参照枠」の活用のための手引
- 令和4年11月 「地域における日本語教育の在り方について」(報告)
- 令和6年 3月 「日本語教育の参照枠」の見直しのために
検討すべき課題について

【ツール等】

- 令和4年 9月 日本語能力自己評価ツール「にほんごチェック!」
- 令和5年 3月 「生活 Can do」一覧
- 令和7年 7月 「つながるひろがる にほんごでの暮らし」のレベル対応

【事業等】

- 令和4～5年度 「日本語教育の参照枠」を活用した教育モデル開発事業
- 令和6年度 「日本語教育の参照枠」を活用した教育モデル開発・普及事業



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY·JAPAN

2. なぜ今、「参照枠」なのか？



まずはここ！（日本語教育コンテンツ共有システム [NEWS](#)）

「日本語教育の参照枠」に関する政府の閣議決定等（抜粋）



●日本語教育の推進に関する法律（令和元年法律第48号）（令和元年6月28日）

第三節 日本語教育の水準の維持向上等（第22条 教育課程の編成に係る指針の策定等）

国は、日本語教育を受ける者の日本語能力に応じた効果的かつ適切な教育が行われるよう、教育課程の編成に係る指針の策定、指導方法及び教材の開発及び普及並びにその支援その他の必要な施策を講ずるものとする。

●日本語教育の推進に関する施策を総合的かつ効果的に推進するための 基本的な方針

（閣議決定 令和2年6月23日）

4 教育課程の編成に係る指針の策定等

・ 「ヨーロッパ言語共通参照枠（以下「CEFR」という。）」を参考に、日本語の習得段階に応じて求められる日本語教育の内容・方法を明らかにし、外国人等が適切な評価を受けられるようにするため、日本語教育に関わる全ての者が参照可能な日本語学習、教授、評価のための枠組みである「日本語教育の参照枠」を文化審議会国語分科会において検討・作成する。

・ 「日本語教育の参照枠」を踏まえ、「生活者としての外国人」が日常生活を営む上で必要とされる生活上の行為を日本語で行い、言語・文化の相互尊重を前提としながら、日本語で意思疎通を図り、自立した言語使用者として生活できるよう支援するため、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案」（平成22年5月19日文化審議会国語分科会）について、文化審議会国語分科会において検証を行い、その改定を行う。

第2章4 教育課程の編成に係る指針の策定等

(略) 国内外において、また、ライフコースの全体を通じて、外国人等が自身の日本語の習得段階に応じた適切な日本語教育を受けられるようにするため、
「日本語教育の参照枠」等が多様な日本語教育の現場において共通の指標として用いられ、日本語教育関係者や日本語学習者がお互いの教育実践をめぐる知見を共有し連携することにより、日本語教育の質の更なる向上が図られることが重要であることを踏まえ、**「日本語教育の参照枠」**等を普及させるための措置を講ずる。

【具体的施策例】

- ・ 社会通用性を高めるため、国内外の日本語教育機関や地方公共団体・経済団体・企業、登録日本語教員をはじめとする日本語教育に携わるもの等に対して**「日本語教育の参照枠」**の理解を促進するための周知等を行う。
- ・ 国内外における日本語教育が円滑に行われるよう、在留資格制度をはじめとする国の各種制度における日本語能力要件等について、**「日本語教育の参照枠」**に基づいたものとし、制度及び教育環境の整備を行う。

第2章5 日本語能力の評価

- ・（略）日本語能力が求められる様々な分野における外国人等の活動が拡大し、学習・教育内容や方法の多様化が進む中、外国人等の利便性を高め、また、外国人等を受け入れる者による外国人等の日本語能力の把握を容易にするためにも、日本語能力の判定試験等と「日本語教育の参照枠」の対応付けを促進する必要がある。
- ・（略）認定日本語教育機関の教育課程をはじめとする日本語教育の現場においては、それぞれの状況に応じて試験やそれ以外の手法を活用して「日本語教育の参照枠」に基づく学習者の日本語能力の評価が適切に行われることが重要である。

「日本語教育の参照枠」に関する政府の閣議決定等（抜粋）

●外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策（令和7年度改訂）

（外国人材の受入れ・共生に関する関係閣僚会議決定 令和7年7月14日）

1. 円滑なコミュニケーションと社会参加のための日本語教育等の取組

ア 外国人が生活のために必要な日本語等を習得できる環境の整備

イ 日本語教育の質の向上等

○国内外における日本語教育の水準の向上のため、日本語の習得段階に応じて、求められる日本語教育の内容及び方法に関する共通の指標として令和3年10月に文化審議会国語分科会で取りまとめられた「日本語教育の参照枠」を活用し、日本語教育の内容（言語能力記述文：Cando という。）やレベル尺度等に対応した留学、就労、生活の各分野別の教育モデルの開発を令和4年度（2022年度）から実施している。今後は、日本語教育プログラムの開発実績を有する日本語教育機関により、「参照枠に基づくカリキュラム及び教材・評価手法等」の開発を終え、その普及を図ることにより、多様な学習目的に応じた教育内容と評価方法等を整備し、日本語教育の水準の向上を図る。

〔文部科学省〕《施策番号3》【ロードマップ2、3（再掲：13）】

3. 「参照枠」の構成と基本的な考え方

（言語教育観）

行動中心アプローチにおける言語教育の目標設定とは？



1. 「日本語教育の参照枠」の検討経緯

p.5 「日本語教育の参照枠」における言語教育観の柱

2. 「日本語教育の参照枠」について

p.10 言語熟達度に関する二つの指標

p.13 「言語能力記述文」の4種類

p.17 「日本語教育の参照枠における日本語能力観

p.19 「日本語教育の参照枠における日本語熟達度

p.22 「全体的な尺度」と「言語活動別の熟達度」

3. 日本語能力評価について

p.74 「日本語教育の参照枠における評価の三つの理念

p.75 「言語使用者及び学習者の言語能力熟達度を構成する能力」

p.79 「多様な評価の在り方と事例」

4. 参考資料

p.112 「話し言葉の質的側面」

p.117 「評価の種類」

「日本語教育の参照枠」が目指すもの～言語教育観の柱～



文部科学省

1 日本語学習者を社会的存在として捉える

学習者は、単に「言語を学ぶ者」ではなく、「新たに学んだ言語を用いて社会に参加し、より良い人生を歩もうとする社会的存在」である。言語の習得は、それ自体が目的ではなく、より深く社会に参加し、より多くの場面で自分らしさを発揮できるようになるための手段である。

2 言語を使って「できること」に注目する

社会の中で日本語学習者が自身の言語能力をより生かしていくために、言語知識を持っていることよりも、その知識を使って何ができるかに注目する。

3 多様な日本語使用を尊重する

各人にとって必要な言語活動が何か、その活動をどの程度遂行できることが必要か等、目標設定を個別に行うことを重視する。母語話者が使用する日本語の在り方を必ずしも学ぶべき規範、最終的なゴールとはしない。

行動中心アプローチ (action-oriented approach)

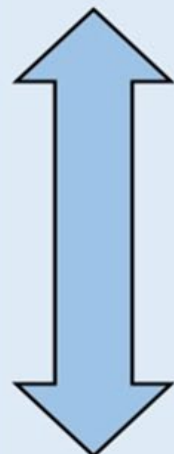
● 多様な背景を持つ言語の使用者及び学習者を、生活、就労、教育等の場面において、様々な言語的／非言語的な課題 (tasks) を遂行する社会的存在として捉える考え方

● 行動中心アプローチにおける言語教育の目標とは、言語の使用者及び学習者がそれぞれの社会で求められる課題を遂行できるようになることである。したがって、学習者は、文法や語彙の難易度、言語活動間のバランスにかかわらず、課題を遂行するために必要な事柄から学ぶことができる。

「日本語教育の参照枠」の構成

「日本語教育の参照枠」として示す範囲

抽象的



具体的

全体的な尺度

日本語能力の熟達度について全体的な尺度を6レベルで示したもの

言語活動別の熟達度

日本語能力の熟達度を5つの言語活動（「聞く」「読む」「話す（やり取り）」「話す（発表）」「書く」）ごとに6レベルで示したもの

言語能力記述文（日本語教育の参照枠 Can do）

日本語を使ってどんなことができるかを「～できる」という表現で示した文
活動Can do、方略Can do、テキストCan do、能力Can do

漢字を含む文字の扱いについて

日本語能力評価について

分野別の言語能力記述文（Can do）

生活
Can do

留学
Can do

就労
Can do

〇〇
Can do

...

現場 Can do : 個別の団体・教育機関等が自由に作成する言語能力記述文

p.15

日本語能力の熟達度を6つのレベル、言語能力記述文で示したもの。

言語使用者 熟達した	C2	聞いたり、読んだりしたほぼ全てのものを容易に理解することができる。自然に、流ちょうかつ正確に自己表現ができ、非常に複雑な状況でも細かい意味の違い、区別を表現できる。
	C1	いろいろな種類の高度な内容のかなり長いテキストを理解することができ、含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流ちょうに、また自然に自己表現ができる。社会的、学問的、職業上の目的に応じた、柔軟な、しかも効果的な言葉遣いができる。
言語使用者 自立した	B2	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、具体的な話題でも抽象的な話題でも複雑なテキストの主要な内容を理解できる。お互いに緊張しないで熟達した日本語話者とやり取りができるくらい流ちょうかつ自然である。
	B1	仕事、学校、娯楽でふだん出合うような身近な話題について、共通語による話し方であれば、主要点を理解できる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結び付けられた、脈絡のあるテキストを作ることができる。
言語使用者 基礎段階の	A2	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応じることができる。
	A1	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

指標②「日本語教育の参照枠」の言語活動別の熟達度

p.23

日本語能力の熟達度を5つの言語活動ごとに6レベルで示したもの。

段階	レベル	理解すること		話すこと		書くこと
		聞くこと	読むこと	やり取り	発表	書くこと
熟達した言語使用者	C2	生であれ放送されたものであれ、自然な速さで話されても、その話し方の癖に慣れる時間の余裕があれば、どんな種類の話し言葉も、難なく理解できる。	抽象的で、構造的にも言語的にも複雑な、例えばマニュアルや専門の記事、文学作品のテキストなど、事実上あらゆる形式で書かれた言葉を容易に読むことができる。	慣用表現、口語体表現をよく知っていて、いかなる会話や議論でも努力しないで加わることができる。 自分を流ちょうに表現し、詳細に細かい意味のニュアンスを伝えることができる。 表現上の困難に出合っても、周りの人がそれにほとんど気が付かないほどに修正し、うまく繕うことができる。	状況にあった文体で、はっきりとすらすらと流ちょうに記述や論述ができる。 効果的な論理構成によって聞き手に要点を把握させ、記憶にとどめさせることができる。	明瞭な、流ちょうな文章を適切な文体で書くことができる。 効果的な論理構成で事情を説明し、その要点を読み手に気付かせ、記憶にとどめさせるように、複雑な内容の手紙、レポート、記事を書くことができる。 仕事や文学作品の概要や評を書くことができる。
	C1	たとえ構成がはっきりしなくて、関係性が暗示されているに過ぎず、明示的でない場合でも、長い話が理解できる。 特別の努力なしにテレビ番組や映画を理解できる。	長い複雑な事実に基づくテキストや文学テキストを、文体の違いを認識しながら理解できる。 自分の関連外分野での専門の記事も長い技術的説明書も理解できる。	言葉を殊更探さずに流ちょうに自然に自己表現ができる。 社会上、仕事上の目的に合った言葉遣いが、意のままに効果的にできる。 自分の考えや意見を正確に表現でき、自分の発言を上手に他の話し手の発言に合わせることができる。	複雑な話題を、派生的話題にも立ち入って詳しく論ずることができ、一定の観点を展開しながら、適切な結論でまとめ上げることができる。	適当な長さで幾つかの視点を示して、明瞭な構成で自己表現ができる。 自分が重要だと思う点を強調しながら、手紙やエッセイ、レポートで複雑な主題を扱うことができる。 読者を念頭に置いて適切な文体を選択できる。
自立した言語使用者	B2	長い会話や講義を理解することができる。 また、もし話題がある程度身近な範囲であれば、議論の流れが複雑であっても理解できる。 大抵のテレビのニュースや時事問題の番組も分かる。 共通語の映画なら、大多数は理解できる。	筆者の姿勢や視点が出ている現代の問題についての記事や報告が読める。 現代文学の散文は読める。	流ちょうに自然に会話をすることができ、熟達した日本語話者と普通にやり取りができる。 身近なコンテキスト(文脈・背景)の議論に積極的に参加し、自分の意見を説明し、弁明できる。	自分の興味関心のある分野に関連する限り、幅広い話題について、明瞭で詳細な説明をすることができる。 時事問題について、いろいろな可能性の長所、短所を示して自己の見方を説明できる。	興味関心のある分野内なら、幅広くいろいろな話題について、明瞭で詳細な説明文を書くことができる。 エッセイやレポートで情報を伝え、一定の視点に対する支持や反対の理由を書くことができる。 手紙の中で、事件や体験について自分にとっての意義を中心に書くことができる。
	B1	仕事、学校、娯楽でふだん出会うような身近な話題について、明瞭で共通語による話し方の会話なら要点を理解することができる。 話し方が比較的ゆっくり、はっきりとしているなら、時事問題や、個人的若しくは仕事上の話題についても、ラジオやテレビ番組の要点を理解することができる。	非常によく使われる日常言語や、自分の仕事関連の言葉で書かれたテキストなら理解できる。 起こったこと、感情、希望が表現されている私信を理解できる。	当該言語圏の旅行中に最も起こりやすい大抵の状況に対処することができる。 例えば、家族や趣味、仕事、旅行、最近の出来事など、日常生活に直接関係のあることや個人的な関心事について、準備なしで会話に入ることができる。	簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、野心を語ることができる。 意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。 物語を語ったり、本や映画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。	身近で個人的に関心のある話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。 私信で経験や印象を書くことができる。
基礎段階の言語使用者	A2	(ごく基本的な個人や家族の情報、買い物、近所、仕事などの)直接自分につながるのある領域で最も頻繁に使われる語彙や表現を理解することができる。 短い、はっきりとした簡単なメッセージやアナウンスの要点を聞き取れる。	ごく短い簡単なテキストなら理解できる。 広告や内容紹介のパンフレット、メニュー、予定表のようなものの中から日常の単純な具体的に予測が付く情報を取り出せる。 簡単に短い個人的な手紙は理解できる。	単純な日常の仕事の中で、情報の直接のやり取りが必要ならば、身近な話題や活動について話合いができる。 通常は会話を続けていくだけの理解力はないのだが、短い社交的なやり取りをすることはできる。	家族、周囲の人々、居住条件、学歴、職歴を簡単な言葉で一連の語句や文を使って説明できる。	直接必要のある領域での事柄なら簡単に短いメモやメッセージを書くことができる。 短い個人的な手紙なら書くことができる:例えば礼状など。
	A1	はっきりとゆっくり話してもらえば、自分、家族、すぐ周りの具体的なものに関する聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。	例えば、掲示やポスター、カタログの中によく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。	相手がゆっくり話し、繰り返したり、言い換えたりしてくれて、また自分が言いたいことを表現するのに助け船を出してくれるなら、簡単なやり取りをすることができる。 直接必要なことやごく身近な話題についての簡単な質問なら、聞いたり答えたりできる。	どこに住んでいるか、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。	新年の挨拶など短い簡単な葉書を書くことができる。 例えばホテルの宿帳に名前、国籍や住所といった個人のデータを書き込むことができる。

「日本語教育の参照枠」では、日本語能力の熟達度を5つの言語活動別に示す。

聞くこと

読むこと

話すこと
(やり取り)

話すこと
(発表)

書くこと

- 「理解すること」の中に、「聞くこと」・「読むこと」がある
- 「話すこと」は、必要とされる能力の範囲が異なるため、2つに分ける
 - やり取り: 相手の様子を見ながら、あるいは助けを借りながら行う
 - 発表: ある程度まとまった産出を行う
- 多様な言語的背景を持つ人々と共に暮らしていくことが求められる社会においては、日本語学習者一人一人の日本語能力について、「できること」に注目することが重要であることから、参照枠では、熟達度を言語活動別に捉えていくための指標を示している。

- 社会的存在である、言語の使用者（学習者）が、生活、就労、教育などの場面で遂行していく必要がある課題を、言語を学ぶ上での目標として、具体的に示したものの。
- 言語を使ってできることを「～できる」という形で示した文
- 言語能力記述文を「Can do」（Can do statementsの略）と呼ぶ。

言語能力記述文の例①話すこと（発表）【聴衆の前での講演】

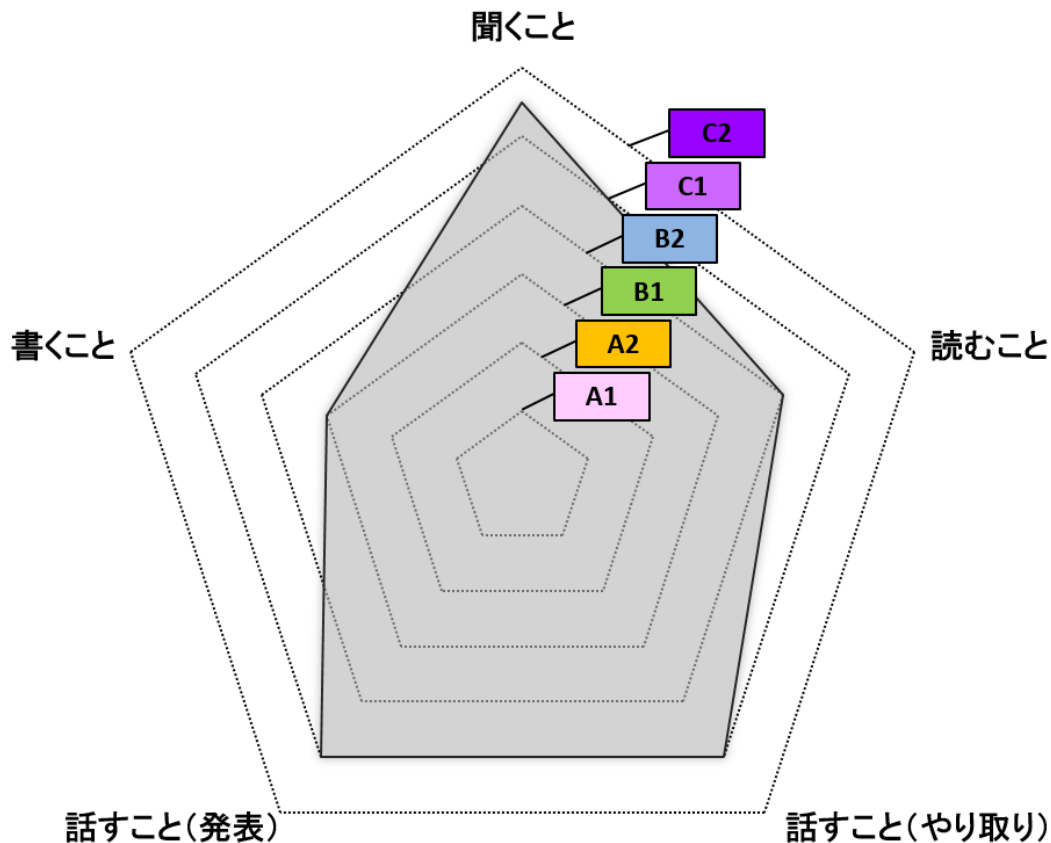
C2	話題について知識のない聴衆に対しても、自信を持ってはっきりと複雑な内容を口頭発表できる。聴衆の必要性に合わせて柔軟に話を構造化し、変えていくことができる。
C1	複雑な話題について、明確なきちんとした構造を持ったプレゼンテーションができる。補助事項、理由、関連事例を詳しく説明し、論点を展開し、立証できる。
B2	はっきりとした、体系的に展開したプレゼンテーションができる。その際、重要な要点や、関連する詳細事項を補足的に強調することができる。
B1	自分の専門でよく知っている話題について、事前に用意された簡単なプレゼンテーションができる。ほとんどの場合、聴衆が難なく話に付いていける程度に、はっきりとしたプレゼンテーションをすることができ、また要点をそこそこ正確に述べることができる。
A2-2	自分の毎日の生活に直接関連のある話題については、リハーサルして短いプレゼンテーションができる。意見、計画、行動に対して、理由を挙げて短く述べることができる。
A2-1	身近な話題について、リハーサルをして、短い基本的なプレゼンテーションができる。
A1	非常に短い、準備して練習した言葉を読み上げることができる。例えば、話し手の紹介や乾杯の発声など。

言語能力記述文の例② 読むこと 【包括的な読解】

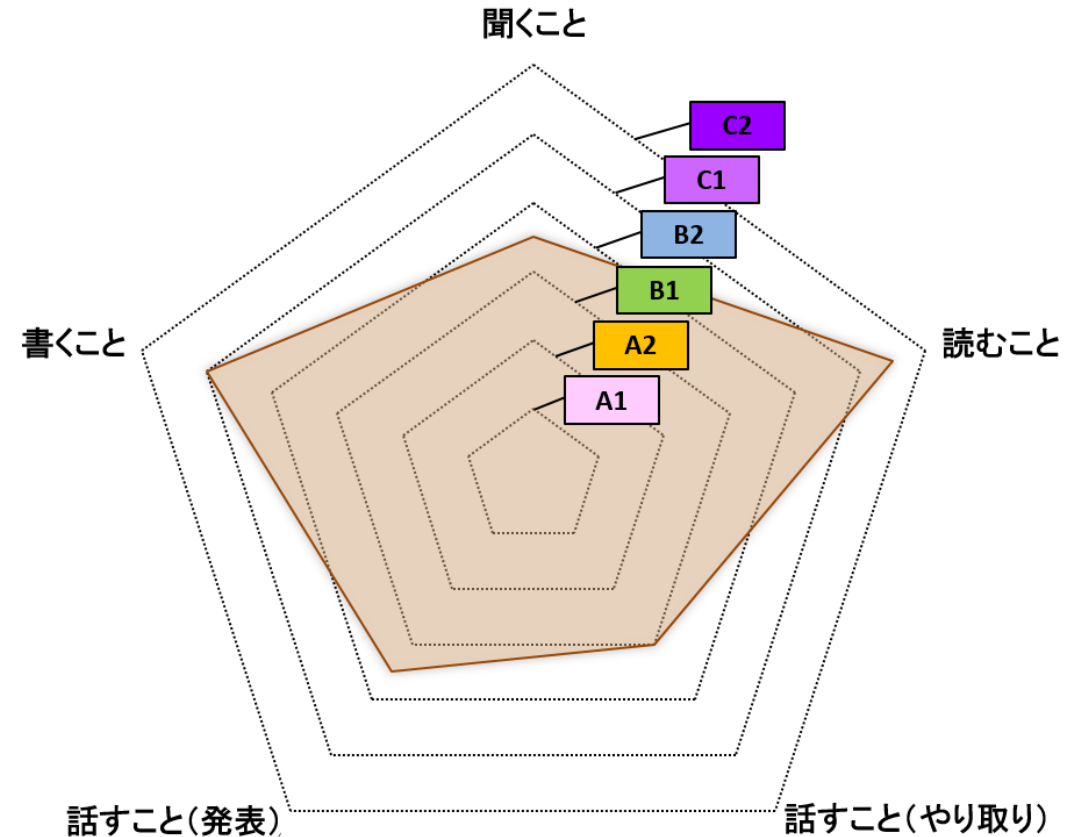
C2	抽象的で構造的に複雑な、若しくは口語表現の非常に多い文学、及び文学以外の書き物を含めて、書かれた言葉のあらゆる形式を実質的に理解できる。
C1	長くて複雑なテキストでも、難しい節を繰り返して読めるのであれば、自分の専門に関係がなくても、中身を詳細に理解できる。
B2	適切な参考資料を選択して使いながら、様々な目的やテキストの種類に合わせて、読むスピード、読み方を変えながら、独力でかなりのところまで読み解ける。広汎な語彙力を持っているが、頻度の低い慣用句には幾らか手こずることもある。
B1	簡潔な事実関係のテキストで、自分の専門分野や興味の範囲内のものは、十分に主題を理解できる。
A2-2	非常によく用いられる、日常的、若しくは仕事関連の言葉で書かれた、具体的で身近な事柄なら、短い簡単なテキストが理解できる。
A2-1	よく使われる語で書かれた、国際的共通語彙もかなり多い、短い簡単なテキストが理解できる
A1	非常に短い簡単なテキストを、身近な名前、単語、基本的な表現と一つずつ取り上げて、必要であれば、読み直したりしながら、一文一節ずつ理解することができる。

日本語の熟達度（例）に見る日本語能力観

口頭能力が高い日本語学習者の 日本語熟達度（例）

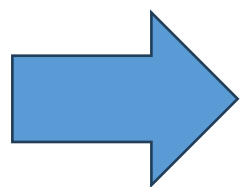


読み書き能力が高い日本語学習者の 日本語熟達度（例）



「日本語教育の参照枠」では、5つの言語活動をバランスよく学んでいくことよりも、個人にとって必要なことから学んでいくことを重視する。

- 日本語の熟達度は、6つのレベル、5つの言語活動別に示す。
- 5つの言語活動をバランスよく学んでいくことよりも、学習者にとって必要なことから学んでいくことを重視する。
- 「やり取りはB1だが、書くことはA2」ということもある。
- どのような能力から優先して学んでいくかは目的に応じて言語活動別に考えていくことが必要。



到達目標を、言語活動別に設定することが可能

言語使用者及び学習者の言語能力熟達度を構成する4つの能力

①一般的能力

一般的能力とは、叙述的知識（世界・社会文化・異文化などについての知識）、技能とノウ・ハウ（生活や余暇・社会的・異文化間・職業的な技能）、実存的能力（態度・動機・価値観・信条・認知的スタイル・性格）、学習能力（言語とコミュニケーションに関する意識・音声意識と技能・学習技能・発見技能）から構成される。

②コミュニケーション言語能力

コミュニケーション言語能力は、語彙、音韻、統語論に関する知識や技能である言語能力、言語の社会的な条件下での言語使用と関連する社会言語能力、談話の構成能力のような言語素材を使うときの機能面に関する能力である言語運用能力から構成される。「日本語教育の参照枠」では、これらの能力に基づき「能力Can do」を示している。

③コミュニケーション言語活動

言語活動は、受容、産出、やり取り、仲介の4つのモードから構成される。「日本語教育の参照枠」では、コミュニケーション言語活動として5つの言語活動（受容：「聞くこと」及び「読むこと」、産出：「話すこと（発表）」及び「書くこと」、やり取り：「話すこと（やり取り）」）についての言語能力記述文を「活動Can do」として示している。

④コミュニケーション言語方略

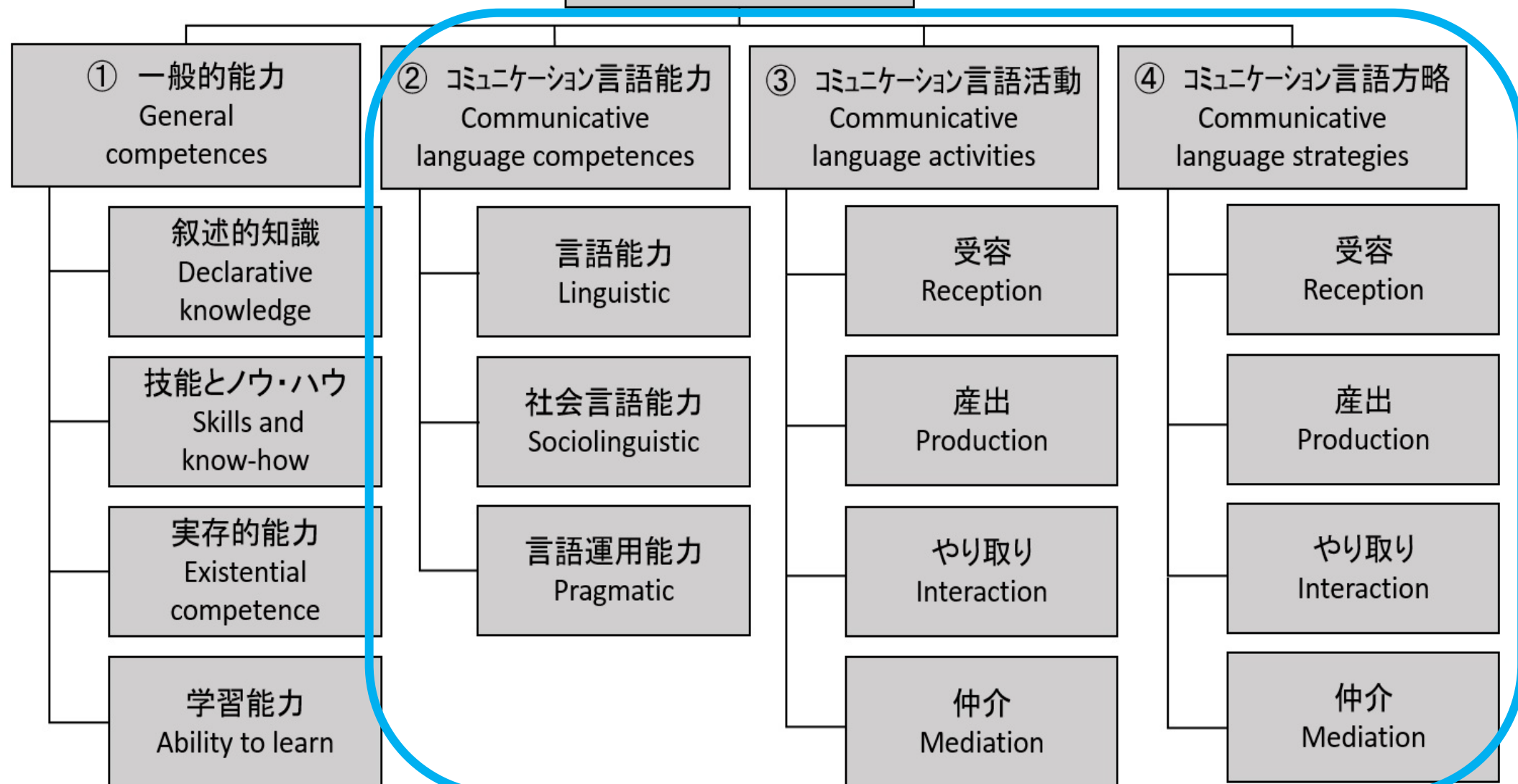
方略とは、言語活動を行う上で駆使する、分からない言葉などに対する推測や質問、聞き取りにくい言葉について聞き返したりする行動を指す。また、コミュニケーション言語方略は四つのモード（受容、産出、やり取り、仲介）ごとに整理することができる。「日本語教育の参照枠」では、受容、産出、やり取りについて「方略Can do」を示している。

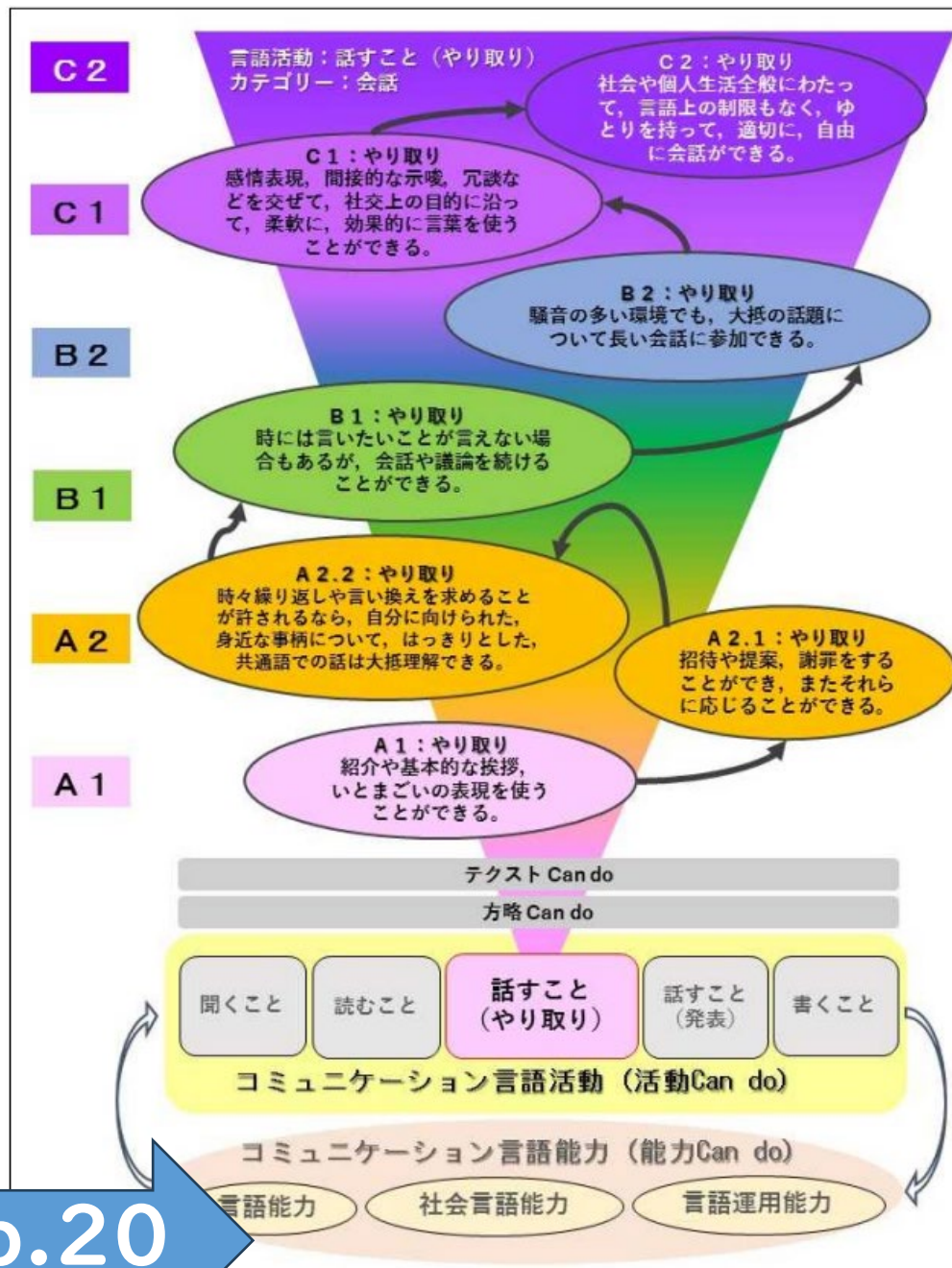
言語使用者及び学習者の言語能力熟達度を構成する4つの能力

表1 CEFR例示的能力記述文一覧の構成

全体的な言語熟達度
Overall Language
Proficiency

p.77



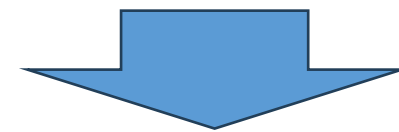


●5つの言語活動

⇒ コミュニケーション言語活動

● コミュニケーション言語活動は、言語に関する知識や技能である
コミュニケーション言語能力と補完関係にある

● コミュニケーション言語能力（能力 Can do）には、言語能力、社会言語能力、言語運用能力がある



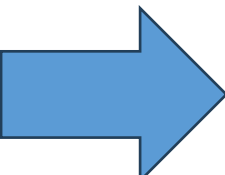
活動 Can do だけに注目せず、能力 Can do を含め、日本語能力の熟達度を捉え直して、教育設計を行う必要がある。

4種類（活動、方略、テキスト、能力）の言語能力記述文

活動 Can do ⇒p.24	言語活動についての言語能力記述文 「聞く」、「読む」、「話す（やり取り）」、「話す（発表）」、「書く」の五つの言語活動ごとに「広報・アナウンスや指示を聞くこと」、「説明書を読むこと」、「情報の交換」、「長く一人で話す：経験談」、「通信」などのカテゴリーを設けている。
方略 Can do ⇒p.49	言語使用の際のストラテジーについての言語能力記述文 方略とは、分からない言葉を推測したり、質問したり、あるいは聞き取りにくい言葉について聞き返したりするなどの行動を指す。CEFRでは、「モニタリングと修正」、「手掛かりの発見と推論（話し言葉と書き言葉）」、「発言権の取得・保持」、「説明を求めること」などのカテゴリーがある。
テキスト Can do ⇒p.49	一まとまりの表現を扱うことについての言語能力記述文 話し言葉、書き言葉についての一まとまりの表現を扱う能力（要約、言い換え、書き写し）を示した言語能力記述文。「ノート取り（講義やセミナー）」、「テキストの処理」というカテゴリーを設けている。
能力 Can do ⇒p.55	言語能力、社会言語能力、言語運用能力についての言語能力記述文 「使用語彙領域」、「文法的正確さ」、「音素の把握」、「正書法の把握」、「社会言語能力」、「発言権」、「話題の展開」、「話し言葉の流ちょうさ」、「叙述の正確さ」などのカテゴリーを設けている。

●日本語教育の参照枠では、学習者が社会によりよく参加していくために**実生活において日本語を使ってどのようなことができるかに注目**する。

●したがって、日本語学習においては、**個別の語彙や文法ではなく、日本語学習者が日本語でできるようになりたいと思う言語活動についての「活動Can do」を学習目標に設定**する。



到達目標をコミュニケーション言語**活動**で設定しつつ、
そのためのコミュニケーション言語**能力**も必要



- 日本語によるコミュニケーションを行うための行動目標として活用でき、教師及び学習者の目標設定・共有に役に立つ。
- 学習者が自らの日本語能力を評価するためにも活用できる。
⇒ Can do493収録、14言語に翻訳
- 対外的に日本語能力を示し、説明する際にも活用できる。
- 語彙や文法的正確さや流ちょうさ等の言語能力の熟達度を示した「話し言葉の質的側面」も参考資料に収録
- 参照枠のレベル尺度に基づき、独自の「現場Can do」を選択、作成することもできる。

p.112

p.103

4. 「日本語教育の参照枠」の評価の考え方



まずはここ！（日本語教育コンテンツ共有サイト[NEWS](#)）

1 生涯にわたる自律的な学習の促進

「日本語教育の参照枠」における評価は、生涯にわたる自律的な学習の促進を目的とする。

2 学習の目的に応じた多様な評価手法の提示と活用推進

「日本語教育の参照枠」では、日本語を使用して、何が、どのように、どれくらいできるのかを言語能力記述文等を用いて具体的に示すとともに、それがどの程度達成できたかを把握するために、多様な評価手法を提示し、その活用を後押ししていくための考え方や事例を示す。

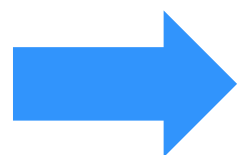
3 評価基準と評価手法の透明性の確保

日本語学習者、教師ばかりでなく、一般の日本人等にとっても参照しやすい、日本語で「できること」に注目した評価基準を示し、その評価手法の透明性を確保することを通して、日本語教育に関わる全ての者の間で評価に関する共通認識を醸成する。これにより、日本語学習者がいつ、どこにいても、一貫した学びを継続できる環境の整備を目指す。

【生涯にわたる自律的な学習の促進を目的とする】

（評価の理念）

自己評価とは、Can doリストで構成された自己評価表などを用いて、自身の言語熟達度を把握することのほか、学習に対する振り返りを記述し、学習の過程で読み返したりすることを通して、自律的な学習能力を育成することを目的とした評価活動のことを指す。



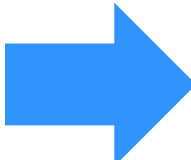
最終的に自律学習能力を身に付けることを目指す

「評価の方法や伝統はさまざまであるが、あるアプローチより、別のアプローチの方が、教育上の効果において絶対に優れていると考えるのは間違いである。共通参照レベルのような、共通基準の主要な利点は、異なる評価の形式でも対応付けが可能になることである。」

➡ 参照枠を通して対応付けた上で、教育の目的に応じて様々な手法を組み合わせたり、取捨選択したりしつつ、透明性と一貫性を持って評価を行うことを推奨している。

評価の在り方については、試験によるものとそうでないものがある。試験によらない評価とは、言語を用いた課題遂行能力や学習過程における様々な気づきや学びを把握するための評価の方法のことを指す。

言語能力の熟達度の評価は、そのカリキュラムにおいて設定した学習目標や学習者の特性に応じて、試験と試験によらない評価を組み合わせる総合的に実施していくことが望ましい。



コースデザインにおいて評価の設計が大切



p.79

2. 学習の目的に応じた多様な評価手法の提示

①試験

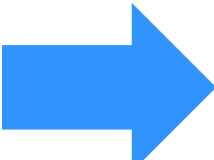
②パフォーマンス評価

③自己評価

④相互（ピア）評価

⑤ポートフォリオ評価

p.79



学習者に必要な能力を適切な方法で測ること
学習目標や学習者の特性に応じて、試験による評価と
試験によらない評価を組み合わせるなど、評価手法を
適切に選択して実施する

熟達度評価と到達度評価、形成的評価と総括的评价・・・？
評価のおさらいは、参照枠の参考資料5へ

p.117

コミュニケーション言語活動としての5つの言語活動

【産出】

「話すこと
(発表)」
「書くこと」

【受容】

「聞くこと」
「読むこと」

【やり取り】

「話すこと
(やり取り)」

- ①試験 ②パフォーマンス評価 ③自己評価
④相互(ピア)評価 ⑤ポートフォリオ評価

コミュニケーション言語活動としての5つの言語活動

A2-2

自分の毎日の生活に直接関連のある話題については、リハーサルして短いプレゼンテーションができる。意見、計画、行動に対して、理由を挙げて短く述べることができる。

- ①試験 ②パフォーマンス評価 ③自己評価
- ④相互（ピア）評価 ⑤ポートフォリオ評価

プロジェクトワークや日本事情などで、ロールプレイやパフォーマンス評価を検討する場合、評価の観点ごとにCan doを組み合わせたり、ルーブリックを用いて評価することもできる。

<ロールプレイ>

- 与えられた言語的な課題（タスク）をどの程度達成できたか。
⇒ 活動Can do
- 会話の流暢さや発音、正確さなどを評価の観点に加えたい！
⇒ 能力Can do
- わからない言葉の意味を聞いたりもう一度説明を求めたりするなどの会話上の工夫についても評価したい！
⇒ 方略Can do

※観点ごとに種類別のCan doを組み合わせ、それがどの程度できたかについて、段階を設けたルーブリックで、設定した学習目標について総合的な評価を行うこともできる。

3. 評価基準と評価手法の透明性の確保

日本語学習者、教師ばかりでなく、一般の日本人等にとっても参照しやすい、日本語で「できること」に注目した評価基準を示し、その評価手法の透明性を確保することを通して、日本語教育に関わる全ての者の間で評価に関する共通認識を醸成する。

これにより、日本語学習者がいつ、どこにいても、一貫した学びを継続できる環境の整備を目指す。

3. 評価基準と評価手法の透明性の確保

教育機関は、社会に対して適切な日本語能力のレベル判定が示せるよう、日本語教員が参照枠が示すレベル感を把握し評価するための研修を行う必要がある。

p.90①
Familiarisation

評価のための「レベル感研修」

「日本語教育の参照枠」レベル感ワークショップ
の資料（ワークシート）と研修動画



【令和5年度文化庁日本語教育大会オンラインワークショップ
「日本語教育の参照枠」を活用したコースデザインを考える】

「つながるひろがるにほんごでの暮らし」
のレベル別動画（A1～B1をめざそう）





5. コースデザインの4ステップ

- ①到達目標・学習目標を設定する
- ②言語能力記述文を選ぶ
- ③評価方法を決める
- ④教える内容と方法を決める

STEP① 到達目標を設定する

学習者が日本社会の中で達成しようとする言語的な課題は何か。
そのために必要な日本語でのコミュニケーションは何かを考える。

- 【全体的な尺度】を参照し、日本語教育コースの目的に応じた、日本語能力の熟達度の到達目標をCan doで設定する
- 【言語活動別の熟達度】を参照し、目的を達成するために必要となる5つの言語活動別の熟達度（レベル）を設定する

このとき、言語活動をバランスよく学んでいくことよりも、学習者にとって必要なレベルを見極め、どのような能力から優先して学んでいくかも含めて計画する。

STEP② 言語能力記述文を選ぶ

- 各レベル、各言語活動別の学習目標として、
達成したいコミュニケーション言語活動（活動Can do）を設定する
- それを支えるコミュニケーション言語能力（能力Can do）も適切に設定する。課題を達成するための語彙や表現、文型、社会言語的知識などを学習項目として配列）

これまで、言語知識・言語能力を優先してカリキュラム編成を行ってきた機関は、教育理念と教育目標に合わせて達成すべき言語行動（活動）の具体的な目標をCan doで設定し、それをどう達成し、どう評価するかを検討することが必要になる。

STEP③ 評価方法を決める

● 各レベル・各言語活動・各授業科目の到達目標の達成をどのような評価手法で判定するかを設定する

- 評価方法のほか、評価に必要なツールを設定する
- 評価方法及び結果の学習者への伝達方法を決める
- 評価方法や尺度について学習者に説明する

※各教員の評価基準・尺度（レベル感）を揃えることが重要

STEP④ 教育内容・教材を設定する

- 目標とする言語活動を達成するために有効となる教育内容・教材を設定する。

○自習用・反転授業のためのオンデマンド教材や文字学習アプリなどを組み合わせて、活動目標を達成するための最適な教材・教具を設定する。

○教材は、言語活動別に設定する場合もあれば、総合教材を計画的に活用することで、言語活動別の日本語能力とともに複数の言語活動を組み合わせ、実際の言語活動に近づけた統合型活動を行うこともできる。

※行動中心アプローチの課題（タスク）には言語的/非言語的な行動の全てが含まれる。方略Can do（言い換えや自己修正、確認など）や、生活・文化・社会的情報が含まれるように配慮することも重要である。

コースデザインの方法が詳しく知りたい場合は

「日本語教育の参照枠」の活用のための手引

第1章 「日本語教育の参照枠」とは？

Q&A:なぜ取りまとめられたの？

第2章 Can doをベースにしたカリキュラム開発の方法

1. コースデザインを行う上で重要になる視点（考え方）
2. コースデザインの概説
3. バックワード・デザイン
4. シラバスへのCan doの組み込み方

第3章 Can doをベースにしたカリキュラムの事例

1. 生活:地域日本語教育における県の事例
2. 留学:法務省告示日本語教育機関の事例
3. 就労:就職支援事業実施機関の事例



コースデザインに役立つツール

令和4, 5年度文部科学省委託 「日本語教育の参照枠」を活用した教育モデル開発事業 (日本語教育振興協会実施) 報告書～留学分野の日本語教育のカリキュラムを作るために～

例1：高度人材就職2年コース、大学院・大学・専門学校進学2年コース など

時間		6か月		6か月		6か月		6か月		
学習段階	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
「参照枠」レベル	～A1	A1～A2	A2	A2～B1	B1	B1	B1～B2	B2	B2	C1～

例2：高度人材就職1.5年コース、大学院・大学・専門学校進学1.5年コース など

時間		3か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月		
学習段階	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
「参照枠」レベル	～A1	A1～A2	A2	A2～B1	B1	B1	B1～B2	B2	B2	C1～

例3：教養日本語2年コース、文化体験2年コース、大学院・大学・専門学校進学2年コース など

時間	3か月	3か月	6か月	3か月	6か月	3か月	3か月			
学習段階	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
「参照枠」レベル	～A1	A1～A2	A2	A2～B1	B1	B1	B1～B2	B2	B2	C1～

C×M ステップ3：モジュールボックス「基本10モジュール」から重点項目を選定

時間	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月
学習段階	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
「参照枠」レベル	～A1	A1～A2	A2	A2～B1	B1	B1	B1～B2	B2	B2	C1～
＜モジュールボックス：基本10モジュール＞										
1 授業／講義に参加できる										
2 グループでの活動に参加できる										
3 試験の準備・対策ができる										
4 面接・面談が受けられる										
5 情報収集ができる										
6 情報発信ができる										
7 問い合わせができる										
8 社交ができる										
9 手続きができる										
10 楽しむことができる										

*色の意味： 重視して行う 行う活動 ほぼ行わない

●「日本語教育の参照枠」を活用した
留学分野のカリキュラム作成を支援するツールとして
「コースフレームワーク」と「モジュールボックス」を
作成・公開している。



コースデザインに役立つツール

[illegible]

- 「日本語教育の参照枠」の収録Can doの一覧
4種類のCan doの関係や全体構成を把握できる





文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY·JAPAN

6. 「参照枠」を知るために

～主任から先生方へ～

日本語教育コンテンツ共有システム NEWS

NIHONGO Education contents Web sharing System

NEWS 日本語教育コンテンツ共有システム

分類から検索

- ▼コンテンツ種別
- ▼対象者
- ▼学習者
- ▼学習目的
- ▼対象言語
- ▼学習内容
- ▼標準的なカリキュラム案等

※学習者向けの言語別コンテンツは、下記一覧からも御覧になれます。

English

한국어

Español

Português

中文

キーワードで検索（書誌名称、概要、書誌内容、所有者）

このサイトは文部科学省総合教育政策局日本語教育課が運営しています。

文部科学省 MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS, SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

日本語教育に関わるすべての人へ

日本語教育の参照枠

Framework of Reference for Japanese Language Education

日本語教育コンテンツの総合情報サイト「NEWS」へようこそ

「NEWS」は、日本語教育に関する教材、カリキュラム、報告書、論文、施策資料等（「日本語教育コンテンツ」）を横断的に検索できる情報検索サイトです。

このサイトは、日本語教育機関が持っている日本語教育コンテンツの共有化と活用を促すことを目的に、文部科学省が提供しています。

「日本語教育の参照枠」

- ▶「日本語教育の参照枠」報告
- ▶「日本語教育の参照枠」の活用のための手引き
- ▶「生活Can do」
- ▶日本語能力自己評価ツールにほんごチェック！

学習サイト「にほんごチェック」

概要

オンライン日本語教育事業報告

- ▶事業概要
- ▶成果報告・グッドプラクティス

多言語調査票

このサイトに「参照枠」関連の文科省・文化庁作成コンテンツが全て入っています。

●参照枠Can doは、14言語に翻訳されてExcelで編集可能なファイルです。

●「にほんごチェック！」アプリも14言語翻訳対応です。

こちらをクリックしてください。



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS, SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

日本語能力自己評価ツール「にほんご チェック！」

にほんごのうりよくじこひょうか
日本語能力自己評価ツール

にほんご チェック！

いま にほんご
今、日本語でどんなことができるかチェックしてみよう

まえ
チェック！する前に

右上の言語選択より
日本語を含む14言語が選択できます。

LANGUAGE

日本語

簡体字 中国語（簡体字）

English 英語

Filipino フィリピン語

Indonesia インドネシア語

ខ្មែរ ក្រមួល 語

한국어 韓国語

Монгол モンゴル語

မြန်မာစာ ၂၃၂၃၂၃ မြန်မာစာ

नेपाली नेपाल語

Português ポルトガル語

español スペイン語

ไทย タイ語

Tiếng Việt ベトナム語

日本語

「日本語教育の参照枠」
の5つの言語活動ごと
に日本語能力を自己評価
します。

き
聞くこと

か
書くこと

よ
読むこと

はな
話すこと
はつひょう
(発表)

はな
話すこと
(やり取り)





文部科学省

TSUNAHIRO

「生活者としての外国人」のための日本語学習サイト つながるひろがる にほんごでの暮らし



●概要

日本語教室がない空白地域に暮らし、日本語学習機会がない外国人が独学で習得できる日本語学習コンテンツを開発・公開

●内容

生活場面の動画中心、日本語・外国語字幕表示、表現・語彙、文型の確認、生活に必要な情報等を掲載した学習サイト

●対応言語 全19言語

中国語(簡体字)、中国語(繁体字)、英語、フィリピン語、フランス語、インドネシア語、クメール(カンボジア)語、韓国語、モンゴル語、ミャンマー語、ネパール語、ポルトガル語、ロシア語、スペイン語、タイ語、ウクライナ語、ベトナム語、日本語、シンハラ語

●使い方ガイドブック等の作成

- ・使い方ガイドブック
- ・パンフレット、ポスター各種
- ・広報用動画 等

●実績(令和6年度)

340万アクセス



新着
コンテンツFirst of all
自分に合った
レベルを探そうこのサイトにつ
いて

サイトの使い方

日本語の特徴

生活の中の読み
書き役に立つ情報
<動画>役に立つ情報
<コラム>

便利なフレーズ



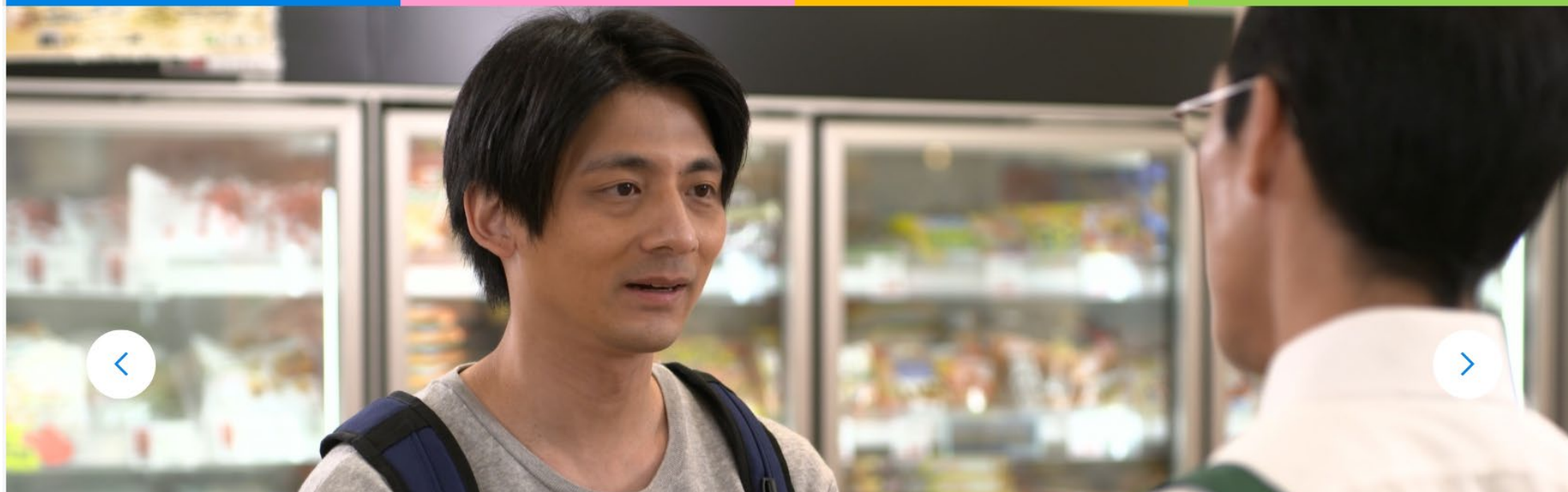
目指そう A1レベル



目指そう A2レベル



目指そう B1レベル



便利なフレーズ

はじめに覚えよう！日本語の便利なフ
レーズ

- シーン1 ちょっと声をかけたいと
き
- シーン2 買い物をするとき
- シーン3 注文するとき
- シーン4 近所の人に会ったとき
- シーン5 人の家を訪問するとき
- シーン6 質問したいとき



目指そう A1レベル

- シーン1 あいさつをしよう
- シーン2 身近なものを買ってみよ
う
- シーン3 売り場や値段をきいてみ
よう
- シーン4 ほしいものを選んで買っ
てみよう
- シーン5 お店の人に希望を伝えて
みよう
- シーン6 レストランへ行ってみよ



目指そう A2レベル

- シーン1 場面に応じたあいさつを
しよう
- シーン2 お店のサービスを利用し
てみよう
- シーン3 お店を選んでみよう
- シーン4 いろいろなお店を利用し
よう
- シーン5 上手に買い物をしよう
- シーン6 自治会に入ってみよう
- シーン7 イベントに行ってみよう



目指そう B1レベル

- シーン1 職場であいさつをしよう
- シーン2 行きたい場所に自分の力
で行ってみよう
- シーン3 安全に注意して移動しよ
う
- シーン4 薬局を利用しよう
- シーン5 防災について考えよう
- シーン6 病気を予防しよう
- シーン7 住民として地域の活動に
参加しよう



8